

## 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）

文部科学省は、初等中等教育における教育の情報化の実態等を把握し、関連施策の推進を図るため、標記調査を実施しています。令和5年9月に令和4年度の調査結果（速報値）が公表されました。こちらは、令和5年3月1日における学校のICT環境の整備状況と全国の公立学校の授業を担当している教員のICT活用指導力を調査したものです。「教員のICT活用指導力」については、ICT活用指導力の状況が大きく4つの大項目（表1）ごとにまとめられています（図2）。

宮城県のポイントを見てみると、すべての項目において昨年度よりも伸びていますが、全国平均値と比較すると、毎年、その差に広がりを見せています。特に「大項目C」については、児童生徒の情報活用能力を育成するために必要な力となりますので、これからの社会に求められる人材像をふまえた教育展開の見直しが必要です。今一度、ご自分の授業を振り返りながら、知識・技能の絶えざる刷新のために学び続ける教員を目指しましょう。

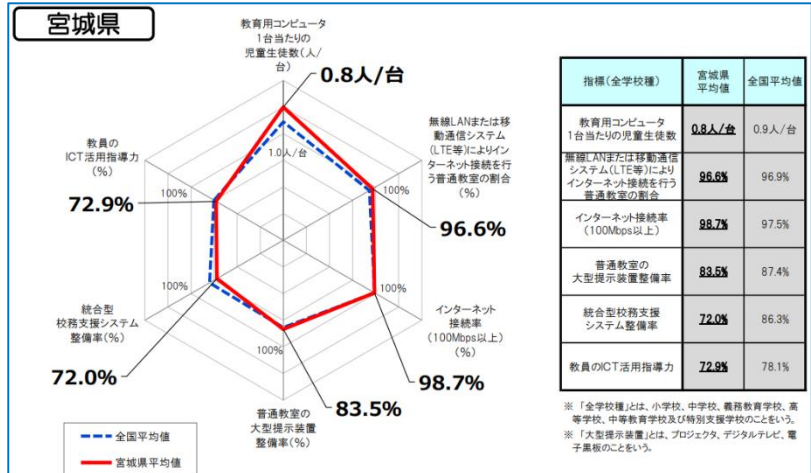


図1 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）

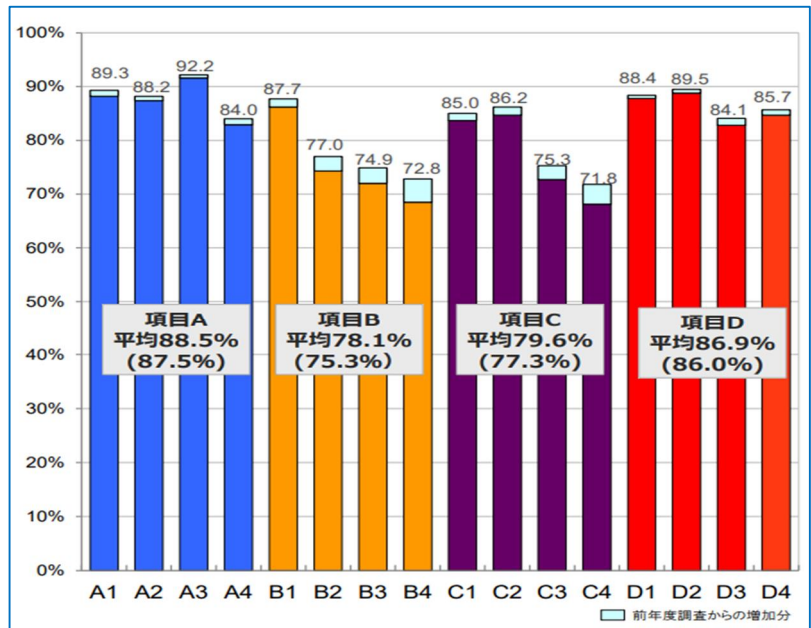


図2 教員のICT活用指導力の状況 ( )内の数値は前年度の値

表1 「教員のICT活用指導力の状況」に関する大項目

大項目	内容	全国平均値	宮城県平均値
A	教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	88.5%	85.8%
B	授業にICTを活用して指導する能力	78.1%	72.9%
C	児童生徒のICT活用を指導する能力	79.6%	75.4%
D	情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	86.9%	84.8%
ICT活用指導力の状況の各項目に関する研修を受講した教員の割合		72.8%	71.1%

(出典:文部科学省 令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果)

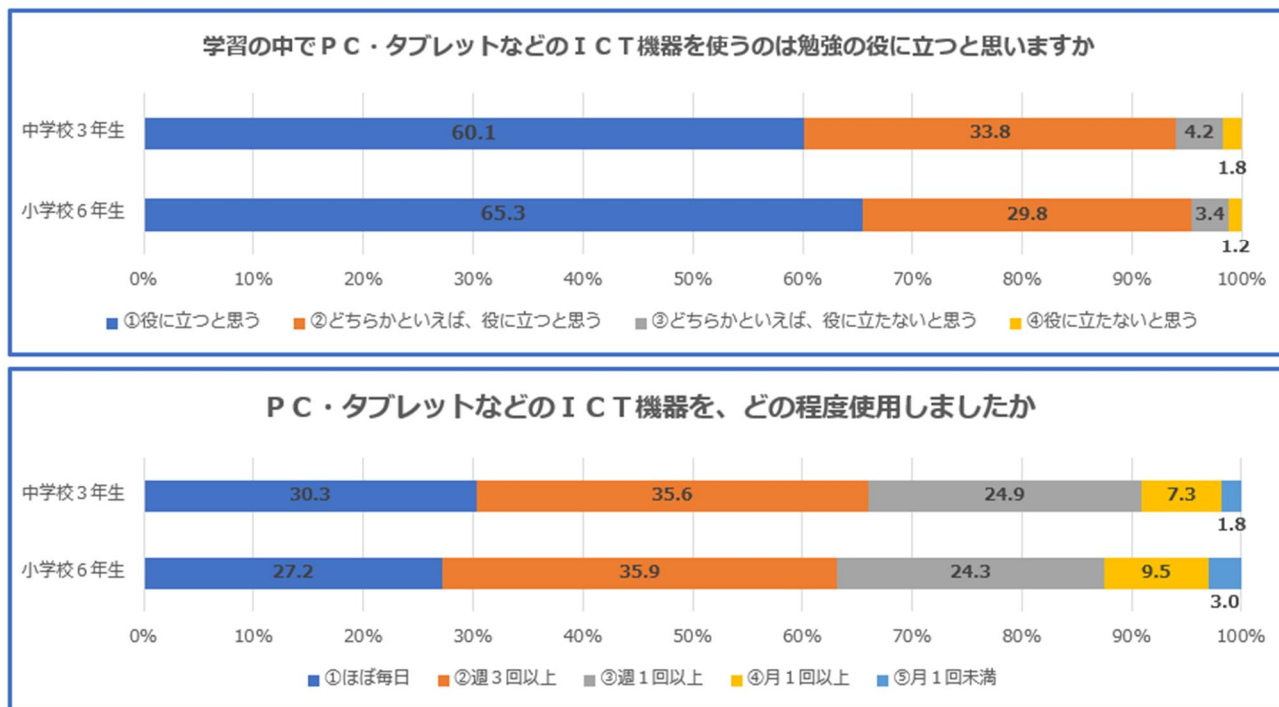
## 全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました！

宮城県公式 Web サイトには、学校教育に関する様々な統計データがまとめられています。令和5年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果（速報）が掲載されました。この調査結果の中には、教科に関する調査結果だけではなく、児童生徒へ質問した内容もまとめられています。

例えば、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問では、小学校6年生および中学校3年生の児童生徒の約6割以上が、「役に立つと思う」と回答があったのに対し、「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問では、「ほぼ毎日」と回答した割合が3割ほどで、中学校3年生では、3割を下回っている結果となりました。

昨年度の結果と比較すると、県域でのICTを活用した授業が徐々に浸透してきているように思えますが、子どもたちがコンピューターなどのICT活用への関心が高いことが浮かび上がった一方で、授業ではICTの活用が十分に進んでおらず、児童生徒の関心に応えられていないという現状がうかがえます。

ICT活用にチャレンジ、実践している学校もある一方で、まだまだこれからという学校も多いかと思いますが、まずは「ICT教育によって学校の環境を5年後、10年後どう変えられるか」「ICT教育によって、児童生徒がどのようなスキルを身に付けて、どう社会に役立てるだろうか？」といったビジョンを持つことが必要ではないでしょうか。各自治体や学校が、このゴールイメージを持つことが大切ですので、どのような形で授業の中にICTを取り入れ、子どもの成長につなげられるか、みなさんで考えてみるのもよいと思います。



（出典：宮城県公式 Web サイト 令和5年度全国学力・学習状況調査の宮城県の調査結果報告（速報） ※仙台市を除く）

編集後記

Mナビ新聞—情報教育通信—第19号はいかがだったでしょうか。今回は、学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果をメインにお伝えしました。  
Mナビ新聞では、皆様からのご感想・ご意見・ご要望を募集しております。右記の二次元コードからフォームに記入していただくと幸いです。次号もお楽しみに！（第19号担当：三浦）

